

# はくさんさん

## 感謝の真

第 103 号 H29 年秋号  
伊豆市 法住寺 発行

今年のお会式は、超大型の台風二十一号が接近し伊豆半島に上陸するかもしれない、そんな天候の中でしたが、無事にお勤めすることができました。

お子さんたちの献灯献花は毎年のことながら感動します。小学生の姉さんや兄さんの所作をまねながら、小さな弟や妹が健気に清な明かりを捧げる。お祖師さまは、この子たちが発育円満、健やかに育つよう見守りして下さることでしょう。

### 「寿量の祈り 感謝と敬意」

大自然 ありがとうございます。  
社会の皆さん ありがとうございます。  
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。

合掌 合掌 合掌

私たちの日々の暮らしの中では、悲しいことや辛いこと、また苦しいことなど様々にあります。そんな時、南無妙法蓮華経が杖、柱となつて私たちを支えてくださる。この日も何とかお守りくださいとお題目をお唱えするのでした。

\*

「大難四か度、小難数知れず」、日蓮聖人は、大きな法難に四度、小さな法難は数えることが出来ない程あったのですが、身命を惜しまず、後世の私たちに法華経を伝えて下さいました。それは法華経こそが衆生を救う真

の教えであり、お釈迦さまから時空を超えて直に広めるように託されたからなのです。とは云え法華経は部厚いお経で、逐一内容を知ることには難しい、そこで法華経の全てを南無妙法蓮華経の七字に込めたのです。私たちはお題目を一心にお唱えすることで法華経の全て、内容、功德を頂くことができるとご教示してくださったのです。真にありがたいことです。

\*

護持会総会後、本堂内で万灯が披露され清餐。今年も手作りのネギぬた、里芋コンニャ

ク、キンピラ等々、早くからお勝手で準備、今年は元村の女衆さんのご奉仕でした。丹精込めた手作り料理、多くの方に楽しんでもらいました。

このお会式の為にネギや里芋等々、畑で育てて下さったり、手作り大福や様々なお品を奉納して頂く中で、お祖師さまのお手



清浄な灯を献じました



本堂の中での万灯

# お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

## 宝物のてがみ

私にとっての宝物のひとつに  
戴いたお手紙があります。携帯  
やメールがあっても、やはり手  
書きで、したためられたお便り  
には、書き手の想いがそこにあ

紙を想いました。『里芋一駄、蜜柑一籠、御座むしろ十枚を頂戴いたしました。御礼申し上げます』等、感謝のお気持ちを書きに  
られています。殊に上野殿は様々なお品を身延山に送っています。現在の富士宮市上野の地頭で信心厚く、経済的には豊かではなかったのですが、お祖師さまを支え続けました。上野殿とは南条氏のこと、元は伊豆国南条に在ったのです。伊豆長岡駅の辺りを南条と云いますが、伊豆にご縁のある方です。

\*

『く前略く 一昨年の母の七回忌の折のことです。法住寺さんのお玄関に一歩足を踏み入れたとき、先ず目に飛び込んで来たのが、飾られていたお花(野菊と射千玉「ぬばたま」)でした。思わず口をついて出たのは「射千玉ですか」のひと言だけでしたが、その時、私の胸のうちに言葉にできない程の感動が溢れていたのです。

\*

『く前略く 一昨年の母の七回忌の折のことです。法住寺さんのお玄関に一歩足を踏み入れたとき、先ず目に飛び込んで来たのが、飾られていたお花(野菊と射千玉「ぬばたま」)でした。思わず口をついて出たのは「射千玉ですか」のひと言だけでしたが、その時、私の胸のうちに言葉にできない程の感動が溢れていたのです。



野菊とぬばたま

檜扇は父の、そして野菊は母の大好きな花だったからです。両親が寄り添って出迎えてくれた様な気が致しました。「私たちのことは安心していいからね。こちらで仲良くやっているよ。」と微笑む両親の姿

が見える様でした。

母は、お見合いの席でお茶を差し出したときに、遠慮がちにひと目父を垣間見ただけで、よくわからないまま結婚したのだと聞いております。五十数年の結婚生活の中で、いろいろな苦労があった様です。父は母を信頼し母も父を大切にしておりました。それでも時には母の口からつい愚痴めいた言葉が漏れ出てしまうこともあったのです。夫婦でもなかなか埋めることができない溝もあるのだということに心が痛んだこともありました。ですからお互いの存在を大切に慈しみ合う様に活けられたお花が両親の化身の様に目に飛び込んで来た瞬間、心の奥底に沈んで普段は忘れていた切ない小さな塊りの様なものがほろほろと解かれていくのを感じたのです。

秋、車いすの母と散歩するときまって路傍の野菊を摘みそれを写生するのが母の楽しみでした。私の好きな歌「野菊」(遠いやまから吹いて来る...)は、母のイメージと重なります。父から種を貰った檜扇は毎夏強い陽射しに負けぬ花を咲かせ漆黒の射千玉をつけてくれます。野菊と射千玉は別々の時にお



供えていたのですが、あのお玄関での光景が心に残り、昨秋は一緒に活けてお供えしました。

あの時、あの花を選んであの様に活けて下さったことに感謝申し上げます。とても温かいもので満たされました。七回忌の大切な想い出です。  
～後略～

\*

無心に活けた野菊の花が人の心をこれほどまでに深く慈しんでくれることを思い知り、また「精進しよう」と励まされるのでした。

## お知らせ

### 書院トイレ改修

書院が建築されて五十年近くなり、トイレを改修することになりました。現在は男女兼用でご婦人から落ち着かないとの声もあり、男子用、女子用と分け使い易くする予定です。資金は志納金を宛てて工事は来春の予定です。

### 寿命の杜、排水工事植樹

永代供養塔の奥は、大雨が降ると水が溢れ出ますので排水路を設置することになりました。

した。また周辺の植樹も進め、樹木葬の要望に対応していきます。資金は永代供養特別会計を宛ててまいります。

## トピックス

### 寺子屋

今年も子供たちがお寺に泊まって体験学習しました。

今年も山下要さんの畑で収穫体験させてもらいました。ブルーベリー、トマト等々を



収穫体験、沢山のブルーベリーです



カレー作り、玉ねぎをむいています

収穫、田舎に暮らしていてもなかなか出来ない体験でした。中学生や保護者の方々もサポートして下さり、ご飯はカマド・薪で炊き上出来、恒例のカレーも例年以上の出来栄でした。翌日は本堂の掃除、スイカ割り等楽しい二日間を過ごしました。勿論、お経や太鼓の練習もあり、正座でのお題目もありましたよ。

### 日蓮大聖人御聖誕八百年

九月二十八日、日蓮大聖人のご誕生を慶讃する教区大会が身延山で行われました。当山から伊東修護持会長が皆さんを代表して、住職は宗務所顧問として、副住職は行脚隊として参列しました。

お祖師さまは貞応元年(1222)二月十六日、安房小湊でご誕生されました。2022年がいよいよ聖誕八百年を迎えますが、今回の山梨・静岡教区大会をはじめとする慶讃行事が全国で行わ

れていきます。またイベントだけでなく宗務院の機構改革、檀信徒活動の活性化、広く社会に発信、災害援助、国際布教等を実践していきます。



### さまざまな相談やご祈祷

副住職は話を丁寧に聴くことができ、また神仏に通ずるモノをもっており、さまざまな相談やご祈願等で、お寺に来られる方が増えています。合理や科学は大切にしても、時に息苦しさを感じてしまうのが「にんげんだもの」、息苦しさや辛さを感じて当たり前なんです。



### 洋明さんのおはなし

先日、息子とデパート地下街、通称「デパ地下」に寄った時の話。時間は夜の七時五〇

#### 御志納金「七月〜十月」

元村 飯田政春殿 尊母七回忌砌  
八幡 西村喜美子殿 尊母葬儀砌  
元村 山下要殿 尊母七回忌砌  
大仁 渡辺正子殿 永代供養砌  
伊東市 澁谷家殿 永代供養砌

分まさに閉店一〇分前。その日は、息子がサッカーの試合でなかなかのプレーだったこともあり親としても思わずニコニコ、もちろん手ごたえがあった息子もニコニコ、自然と笑顔が出る。そんな中、息子と話をしながら歩いていると「お兄さん。三〇個一五〇〇円のこのカステラ五〇個一〇〇〇円でどう？」と声をかけられ迷うことなく購入。なんだか得したと思い更にニコニコしながらお惣菜コーナーへ。美味しそうなチキンがあったので買おうとすると、チキンと一緒に沢山のフライドポテトのサービス。さらにお店の奥から「肉団子好き？」との仏さまのような笑顔のおばちゃんの声。「もちろん好きです」と答えると、「いい笑顔だったから、これ持てきな」と大きな肉団子を沢山頂いたのである。これぞ閉店間際のデパ地下マジック。どんな時も笑顔でいると、必ず自分の目の前に笑顔が現れる。まさに目の前に自分の心と笑顔を写す鏡があるかのようでした。

\*

日蓮聖人は御遺文「一生成仏抄」で、心を鏡に譬えられ次の様な意味の事を教えて下さっております。「穏やかで安らかな仏さま

の浄土も、迷いや苦しみのある世界も、実はそこに隔てはないのです。浄土も迷いの世界も同じ世界にあり、私たちの心の在り方、心の写り方でその世界は変わります。同じ人も、迷う時は衆生となり、悟る時は仏となる。譬えるなら曇る鏡も磨けば明鏡となるのです。迷う心は磨かない鏡、その鏡も磨けば正しくものの見方の出来る明鏡となります。いつも懈(おこたる)ことなく磨きなさい。どうやって磨くのか？それは南無妙法蓮華経とお題目を唱えることで磨くのです。」

\*

お題目で心の鏡を磨く。先日のデパ地下では笑顔がお題目であり、「ありがとう」の感謝がお題目であり、仏さまの様なおばちゃんとのご縁がお題目だったのでしょう。そのお題目で磨いた心に写ったデパ地下はまさに浄土だったと思います。



#### お寺のホームページ

<http://jyryo.jp/>

検索「伊豆 法住寺」  
スマホ対応 ブログも更新  
寺報はカラーで掲載です。